

図書館づくりは 百年の計

図書館って
ひまな人が行くところでしょ？

自分で買って読むから
図書館なんて関係ないよ

図書館員って
本貸してるだけで気楽そう

などと考えてるあなたへ

静岡図書館友の会

図書館でなら100年前の資料が調べられます

図書館員たちは、先人たちの智慧や経験のつまった記録を、戦争・火事・地震・水害・盗難などから守って、今に伝えてきました。図書館にはそのような、時間と労力のかかったもの、-----お金を出しても買えないものが保存されています。

私たちは図書館があるおかげで、長い人間の歴史が生み出した財産を自由に使うことができます。

図書館は100年後のために資料を保存しています

昔のものばかりではありません。図書館は現在の資料も集めています。それは子どもたちに、また100年後の人々に残されて、情報という大きな力を与えるでしょう。図書館を育てることは、地域と市民の力を育てることにつながるのです。

また、私たち自身の活動も、図書館は地域の歴史記録として残してくれるでしょう。

図書館は社会のあらゆる資料を集めます

個人では買い切れない高価なもの・少数者のためのもの・使われそうにないもの・現代での価値は低いけれど記録として残した方がよいもの、などを収集・保存することは、大変な労力と財源が必要です。でも、こうして集められた多種多様な資料は、貴重な種子となって、将来の社会に多種多様な可能性を残します。

保存が大変なものや、有害と非難されるようなものを収集するには、長期方針と強い基盤が必要です。

たとえば新聞・雑誌のバックナンバーは、一定量以上まとま

らないと使えませんから、一貫した収集システムと広い保存場所が必要です。またアメリカでは一時、「アンネの日記」まで危険図書として追放されかかりました。1回でも危険とか無駄とかのレッテルを貼られた資料を追放したら、図書館にはほとんど蔵書がなくなるだろうと言われています。そうした非難から資料を守るのも、図書館の大事な役目です。

図書館は情報を分類・組織化します

これは「捨てればゴミ、分ければ資源」と同じことですね。分類整理されない情報は、探し出せないの役に立たないゴミと同じになってしまうのです。

図書館の役割は、情報を分類し探しやすく組織化して、それを必要としている人に結びつけることです。それも公平・中立にでなければなりません。社会が複雑化し、情報が多量に出回れば、それだけ分類・組織化は困難になり、そして公平中立性はますます重要になるでしょう。だからこそ、図書館が必要なのです。

図書館は情報をバリアフリーにします

【誰でも】 図書館は、おとなも子どもも、外国人も障害者も、誰でも自由に使えるように設計されています。だから、世界中のたいのみの公共図書館を自分の書斎として使うことができます。これは個人にとって、すごい財産を持つてると同じです。

【無料で】 図書館は、資料も情報も施設もタダで使えます。経済格差が情報格差に直に結びつかないようにする、情報のセーフティネットになります。情報化社会で最も必要な機関、社会に活力を生みだし、生涯学習社会を下支えする機関になるのです。

【自由に】 図書館に行くのに予約は不要です。一人で使えます。目的を聞かれることもありませんし、居たければ一日じゅういられます。来いと言われることも来るなと言われることもありません。そんな図書館は、自発性に基づいた人と情報の自由な交流の広場となります。こうした広場でこそ、最も良き社会性・公共性が育つでしょう。

図書館は巨大な情報システムを設計し、管理します

静岡では年間に、のべ 230 万人以上の人々が図書館を利用し、370 万冊以上の本が借りられています。レファレンスは4万件近くにのぼります。これらの本や人の情報を、プライバシーを守り、安全・正確・効率的に運営するためには、高度なシステムが必要です。

また、システム自身の設計や活動の記録を公開し、市民の財産として広く還元していかなければなりません。財源が限られている中では、資料の相互貸借や分担収集を計ることも重要になっています。緊密なシステム設計と公共図書館ネットワークの組織化は、効率的運営のために欠かせません。



静岡市の図書館づくり市民運動の歴史

「身近に図書館がほしい」

ー静岡に図書館が一つしかなかったころー

はじめは家庭文庫

「子どもたちの近くに本のある環境をつくろう」と願ったお母さんたちが、まず家庭文庫を始めました。やがてその活動が、地域を超えて静岡市全域に広がり、子どもへの図書館サービスを切り開いてゆきます。図書館づくり運動は、ここから育ってゆきました。

はじめの陳情

文庫連絡会が行政に出した一番目の要望は「BM（ブックモービル=移動図書館車）を走らせて下さい」というものでした。それは、大人だって身近に図書館がほしい、という願いです。幅広い年齢の要望は家庭文庫ではとても賄えません。この陳情は、それだけ図書館利用が身近なもの、必要なものになってきたことの現れでした。

地域館づくり

やがてBMが走るようになりました。でも車に積めるのは2000冊くらいです。しかし、最低でも5万冊はなければ、多様な利用者の多様な必要をまかなうには足りません。どうしても地域館が必要になってきます。また、遠い地域から図書館に行くには、往復のバス代だけでも大変な負担になります。

「私たちの町にも身近な図書館がほしい！」地域館づくりは、地域格差の解消を目指す運動でもあるのです。

「図書館をもっとよくしたい」

ー資料費・司書・デザインの向上をめざすー

建物としての図書館ができて、図書館づくりが終わったわけではありません。こんどはレベルアップが課題になってきました。そしてこの“内容の充実”という目標は、決して到達することはない、終わりのない目標です。

資料費が沢山必要なのはなぜ？

知る権利・情報公開・自己決定・生涯学習など、私たちが現代社会をよりよく生きるためには、幅広く多様な知識・情報が不可欠です。医学情報は生死にも係わりますから、常に最新のものそろえなくてはなりません。意見が分かれたり対立している問題は、両方の資料が集められていなければ、比べることができません。

私たちみんなが、自分で調べ、自分で考え、自分で判断する自立した市民になるためには、沢山の本や情報が必要なのです。

なぜユニバーサルデザイン？

誰でも障害者になる可能性を持ちますし、誰でもいつか老人になるでしょう。お年寄りに読みやすい大きな見出しや、子どもの背丈にあった椅子は、利用者誰もが大切にされているサインです。録音図書は、目の不自由な人たち以外にも役立ちますし、絵本は平仮名しか読めない外国人にも使えます。

つまり“図書館利用に障害のある人々”に使いやすければ、みんなに使いやすいものになるのです。

なぜ司書がいなければならない？

図書館は複雑な情報システムで、世界中の情報ネットワークと連携しています。情報の海の案内人・情報の編集者・システム設計者のプロがいなければ、とても運営できません。いくら資料費があっても、よいデザインができていても、使いこなせなければ効果は上がりません。

100万冊の本の中から今日の利用者のために1冊を選び出すこと、100年後の利用者のために保存方法を考えること。そんな仕事をするためには、知識も経験も、そして図書館をよくしていこうという意欲も必要です。

「図書館づくりは街づくり」
～これからの図書館づくり運動～

お願い型から提案型へ

これからの図書館設計を考えると、対立する意見や要望をまとめて一つの提案にまとめる力が必要になってきます。

複合施設の場合、地元の要望の中に図書館をどう位置付けるか、図書館の面積をどのくらい確保するか、みんなを説得してゆかなければなりません。お母さんと子ども・十代・お年寄りなど、様々な層の様々な利用の仕方を共存させることも大事です。

職員が働きやすい設計は、利用者がサポートを受けやすい設計でしょう。図書館の設計を、職員と利用者との共働事業にしていく、それがこれからの目標になります。

静岡市の行政全体から考える

ユニバーサルデザインになっていない街では、図書館だけをユニバーサルデザインにしても、図書館にたどり着くのが大変です。図書館を使いやすくするためには、街全体を使いやすくしなければなりません。

また、静岡市の図書館は誰でもどこでも使えるシステムになっています。資料の取り寄せもできます。だから、静岡市のどこに図書館ができて、自分たちの地域の図書館がよくなったことになるのです。どこの地域の図書館づくりも、静岡市のみんなが当事者なのです。

最後に、一番大切なこと

私たちは単なる図書館サービスの消費者ではありません。公共図書館は住民全体のために税金を使って運営されていますから、私たちは、お金を出しあって建設や運営を市に委託しているオーナーでもあるのです。

どういう図書館にしたいか、どういう運営がいいのか、どんな意見をだしていくことは、権利でもあり、責任でもあります。私たちがまず、力をつけなくてはなりません。

「図書館づくりは街づくり」そして「人づくり」なのです。



図書館づくりへのいろいろな参加のしかた

図書館を使う

たくさん本を借りましょう。リクエストしたり分からないことを調べてもらったり、図書館は沢山の使い方ができる場所です。

図書館を使うことが、そのまま図書館を支持することになります。使うことによって図書館を育てることができるのです。司書は利用者に育てられ、経験値をあげてゆきますし、利用者も、図書館を使うことで自らを育ててゆくことができますでしょう。

図書館を知る

図書館の歴史を知りましょう。どんな人がどんな風に使っているか、司書はどんな仕事をしているのか、知れば知るほど、図書館の大切さがわかります。

違う地域、違う時代の図書館を考えてみましょう。想像力を育て、これからの図書館の夢を描きましょう。多様性を評価でき、長期的視野を持つ、賢い利用者になりましょう。レベルアップした利用者が図書館をレベルアップするのです。

図書館を支える

図書館は永遠に成長途中にあります。たくさんの助けが必要なのです。図書館を知らない人に図書館をPRしていきましょう。ボランティア活動で図書館を助けましょう。市や県に働きかけて、図書館の重要性を認めて貰いましょう。図書館はわたしたちの生活になくてはならない大事なパートナーなのですから、私たちも図書館を支えるパートナーになりましょう。

アメリカの図書館友の会は、こう呼びかけています。

「もしあなたが現在の図書館に不満を持っているなら、それを変えるために友の会に入りましょう。もし満足しているなら、それに感謝するために友の会に入りましょう。」

おまけ

司書になったつもりで、図書館をデザインしてみよう

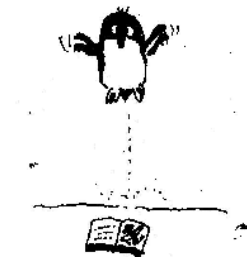
- ・子どもコーナーはどんな風になっていると楽しいかな？
- ・お年寄りはどうな本を読みたがるかな？
- ・手が届きにくい高い棚にはどんな本を置いたらいい？

図書館長になったつもりで、運営計画を立ててみよう

- ・本と雑誌、CDの割合はどのくらいがいいのかな？
- ・これからの図書館に必要なものはなに？
- ・司書のレベルアップのためにどんな研修をする？

市長になったつもりで、新しい図書館建設を計画してみよう

- ・今いちばん図書館が必要なのはどこだろう？
- ・建設費をどう確保しよう？
- ・文化財保存や公文書館とどうタイアップさせよう？





しずとも「図書館を知る」シリーズ：初級編
図書館づくりは百年の計

2008年11月30日 発行

編集・発行 静岡図書館友の会

TEL（携帯） 080-6910-9434
月-金 10時-15時

Email sizutomo2008@yahoo.co.jp